

用語集

- 1 項: 頭字語
- 2 項: 言い回し
- 3 項: 用語集/用語の定義

1 項

頭字語

頭字語	説明
4-ステップ	4-ステップエラー修正方法
A	
AAC	代替拡大コミュニケーション
ABA	応用行動分析
ADA	障害者差別禁止法
ARRT™	音声強化リマインダー・トーン
ASD	自閉症スペクトラム障害
AT	アシスティブ・テクノロジー
B	
BACB®	行動分析士資格認定協会 Behaviour Analyst Certification Board
BCBA®	認定行動分析士® Board Certified Behaviour Analyst®
BIP	行動介入計画
C	
CC	対応チェック
CCS	重要なコミュニケーションスキル
CIB	状況にそぐわない行動
CP	コミュニケーションパートナー

D	
データ収集の際によく使用する表示	
プラス +	正解
マイナス -	不正解
I	自発・自分で物事をする
0 (zero)	不正解/プロンプトあり
PP	部分身体プロンプト
FP	全身身体プロンプト
P	プロンプトあり
V	言語プロンプト
PV	部分言語プロンプト
G	ジェスチャープロンプト
M	モデルプロンプト
VM	ビデオモデル (プロンプト)
VSM	ビデオセルフモデル (プロンプト)
E	
EC	エラー修正
F	
FAQ	よく聞かれる質問
FCT	機能的コミュニケーショントレーニング
FEAB	機能的等価な代替行動 (FEAB)
FI	固定時間間隔
FR	固定比率
G	
H	

I	
ID	知的障害
IDEA	障害者個人教育法
IEP	個別支援教育計画
IFSP	個別家庭サポート計画
J	
K	
L	
LEA	地方教育行政
LMAD	交渉しよう®
LRE	最小限環境
M	
MLC	コミュニケーションの文
MLU	発語の平均の長さ
MLSS	文カードにて使う平均の言葉の数
MPSR	モデル プラクティス スイッチ リピート
N	
O	
P	
P+	正の弱化/弱化子
P-	負の弱化/弱化子
PAE	教育へのピラミッドアプローチ®
PCC	ピラミッド認定教室™
PECS®	絵カード交換式コミュニケーションシステム®
PP	身体プロンプター
PRT®	ピボタル レスポンストレーニング®

Q	
R	
R+	正の強化/強化子
R-	負の強化/強化子
S	
S ^Δ	S-デルタ
SGD	発出デバイス
SS	文カード™
T	
TA	課題分析
TD	健常児
U	
V	
VB	言語行動
VI	変動間隔
VOCA	Voice Output Communication Aid (aka SGD) VOCA
VR	変動比率
W	
X	
Y	
Z	

2 項 言い回し

前よりも良かったらもっとあげよう！	分化強化を簡単に言ったもの。よくできていたら＝強化子をもっと多く・長くアクセスするなど、特に、強化子をなんでも強力にするならもっとする！
よくできたら、もっともらえる	分化強化の簡単にした定義！よくできたら＝もっと強化するか長く強化子をアクセスするなど。基本的に強化子をもっと強力にできれば何でもそうするということ。
1/2 秒ルール	新しいスキルを強化する効果的な時間帯。すぐに強化すること！
手を伸ばした方を教える	PECS の手順にある対応チェックを行っている時に、生徒が手渡した絵カードの絵と生徒が手を伸ばしている方のアイテムと一致しない場合、手を伸ばしている方のアイテムの絵カードに「モデル」そしてプロンプトをする。
順番が大事であれば連鎖型	行動連鎖型レッスン
簡潔で要を得るのが単位型	行動単位型レッスン
簡潔で要を得て簡単に反復できる	行動単位型レッスン
難しいところを手伝う	バックステップエラー修正の手順にて支援者は生徒が正しかった一歩手前のところまで戻りプロンプトをしながら教える。
おばあちゃん・おじいちゃんの秘訣	生徒との親密な関係を築き上げることにてしています。最初は「お気に入りなもの」をただで自由に生徒へ提供し、沢山お気に入りの物を高い比率にさらされた後、生徒は支援者の近くにいたがることでしょう。したがって、教えることはより簡単になります。
パーティーをしよう！	分化強化を簡単に考える方法
プロンプトに勝ち抜く	漸進的時間遅延を使っている時、生徒はプロンプトの必要なく合図によって応じたという意味です。
新しいスキルには「いいね！」という	強化子のアクセスを与える前に発生する必要がある他の行動のために強化子が遅延するため、強化子への即時のアクセスが不可能である場合の 0.5 秒ルールについて考える別の方法。
Create and Wait™ 構成して待つ	コミュニケーションの機会を増加させるために設定された一連の方法
ステップ 4 は絶対に数えない	4 ステップエラー修正にて、ステップ 4（リピート）はエラー修正の手続きの一部で、新しい試行ではありません。そのため、このステップのデータを取るとデータが歪みます。

プロンプトは無くしていくけど合図はそのまま	プロンプトを抜いていく事と、教えている行動を導く環境の中にある自然体の手がかりや合図に注意することについてのリマインド
推測はしないで評価して！	教育へのピラミッドアプローチ®のフレームワークとして、生徒の能力を仮定または推定することはできません。評価する必要があります。観察可能測定可能なスキルが最も重要です。
絵や画像は PECS ではない PECS は絵や画像ではない	PECS は機能的コミュニケーションを教える手順であり、様式(モダリティ)として絵を使っているということのリマインド
PECS でなければそれはただの絵	PECS は機能的コミュニケーションを教える手順であり、絵や画像は様式として使われていることのリマインド。絵や画像は様々な理解そして表出コミュニケーションにて使うことが可能である。
もしガラガラと変わるようであればその時点でやめる	フェイズ IIIB の対応チェックにて、もし PECS ユーザーが 4 ステップエラー修正のステップ 4 にて一致しない方のアイテムへ 2-3 回続けて手を伸ばしてくる場合は試行をやめて焦点を他にあてたほうがよい。

3 項 用語集

2-人制 プロンプト 手続き	基本的に、物や援助の要求などの自発に関するスキルを教える時に使われる。一人は、好ましい出来事で興味を引く、または困った状況を作り出す。もう一人は、適切な反応を確実に引き出すようにプロンプトを行う。この方法は、プロンプト依存や失敗を減らすのに役立つ。
2 人目のトレーナー/身体プロンプター	生徒の後ろまたはとりにいる人の事。PECS のフェイズ I や要求、援助、きゅうけい、コミュニケーションパートナーの気を引くなどのコミュニケーションスキルの自発を教える時に使われる。
4-ステップ エラー修正/4 ステップ	反応が適切な刺激制御に確実に導かれるようにする行動単位系のレッスンの時に使われるエラー修正方法。教育へのピラミッドアプローチ第 2 版にあるページ 219-220 または、PECS マニュアルの 128 ページに例が載っている。
9 つの重要なコミュニケーションスキル	表出そして理解スキルの両方を含む 9 つの重要なコミュニケーションスキルセットは人が他人と効果的にコミュニケーションをとり、他人からの重要なメッセージを理解するために使用する欠かせないスキルで、メッセージの配信方法とは関係ない。表出コミュニケーションは、強化子、援助、休憩の要求や「何が欲しい？」に応答することを含む。機能的な指示に応じる、一つの行動から他の活動への移行、待つ、「ダメ」といわれた時に落ち着いて行動することやスケジュールに応じることなどが理解コミュニケーションに含まれている。
Audio Reinforcement Reminder Tones (ARRT™)	聴覚的に強化を思い出させる音源 (Audio Reinforcement Reminder Tones) - 支援者に適切な行動を強化することを思い出させるために様々な時間間隔で鳴らされる音源。
BF スキナー博士による言語行動	行動分析学の観点でコミュニケーションや言語を分析したスキナーの 1957 年の著書。言語行動は、他者に向けた行動（言語共同体によって形式が規定される）で、その人が関連する直接的報酬や人的報酬を提供する。PECS と言語行動に関してより詳細な情報は PECS マニュアルの 15 章を参照。
S デルタ	行動の変化が強化へつながる刺激になるという暗示。例：「青」信号は交差点を渡ってもよいという SD であり S デルタは「止まれ」また、「わたらない」ということを示す。
あ	
合図	私たちが反応する自然な出来事や合図のこと(たとえば、運転者がブレーキを踏む反応における停止サインなど)。合図は、自然な状況の一部や環境に存続している一部のシグナルである。たとえ

	ば、運転するとき、私たちは運転資格を持つものとして停止線、赤信号、その他の合図に応答できなければならない。
い	
維持	目標が習得された後でも般化の要素は時間とともに引き続き維持していきます。
一定時間遅延	決まった時間の間隔を合図とプロンプトの間に導入すること。
イントラバーバル	スキナー博士によって定義された言語オペラント 他者が言ったことへの反応、または続き（例えば、店の人が「ご注文は何でしょう？」と聞いた後に「ハムオムレツください」と答える場合）。他者が言った事ややりとりには依存するが、現在の動機づけや、今現在の環境には左右されないコミュニケーション。 例えば、「元気？」とか、「どこに住んでいるの？」とか「この夏は何をした？」とかの質問に答えること、または最近観た映画について話していて、「私の好きな映画はXです」と応じる場合。
習得	ある決まった条件下で新しい行動が確立される指導の初期の期間を指す。
付加的/ 意図的な 強化子	自然なルーチンの一部とはなっていない強化子（たとえば、トークン、お金、お菓子、関連しない玩具）。一般的なルールとして、この種の強化子の提供の頻度は、繰り返しながら減らしていくべきで、教えるスキルや行動がより自然な随伴性によって十分に安定した頻度に落ち着くようにする。これらは、ある状況に意図的に加えられる強化子であり、活動に関連する自然な強化子とは全く異なるものである。たとえば、靴を履く行為の自然な強化子は外出であるはずであるが、「よくできたね」と言ったり、ご褒美としてトークンをあげたりすることは、付加的で意図的だと考えられる。また、条件性の強化子としても知られている。
う	
ウィンドウ メッセージ	VOCA や SGD に構成された文やメッセージ（言葉、絵、両方）が表示される場所。
え	
絵カード交換式コミュニケーションシステム® (Picture Exchange Communication System®) (PECS®)	絵カード交換式コミュニケーションシステム (PECS) は、機能的コミュニケーションがないとか、限られているような対象者を、順序良くエビデンスベースで支援するために使用される。適切に指導すれば、PECS を使うことで、基本的なコミュニケーションスキルが即座に獲得され、発語の発達をもたらすこともあり、多くは行動問題の減少をもたらす。
絵カード	様々な発行元から PECS 内で用いられる視覚アイコンや表現のこと。それらはカラー写真、線画、製品のロゴマークでもよい。絵カ

	ードの意味はその使用によって規定される。
エビデンスベースプラクティス(EBP)	ピアレビュー済みの出版物から得られた外部の科学的証拠を含む証拠の蓄積に基づく方法。私たちの臨床判断はこの評価に入りますが、単に私たちの歴史を反映するべきではありません。EBPとは何かと検討するために、様々な専門家アドバイザーグループが様々な基準を確立しています。
エラー修正サイクル	4ステップエラー修正方法ではもう一度全ての4ステップを行うことを示す。
エラーレス指導	ABAの学問の中で(すべてのスキルについて)プロンプトを使って指導することができそして生徒が決して失敗を経験しない様な方法でそれらのプロンプトを体系的に削除していきます。我々からみると、プロンプトはパーフェクトに削除することなどはできないため、エラーが発生する可能性があるため、このような指導法は不可能の可能性がります。誰も、次のレッスンが必ずしも効果的であるということを確認することはできません。支援者チーム皆、このような状況を遭遇した際のために準備し、エラー修正方法を構成し、そのエラーを修正して指導する必要があります。十分に計画された指導・プロンプト方法そして、できるだけ早くプロンプトを削除していくことをピラミッドアプローチの目標の中ではエラー防止と呼んでいます。
お	
応用行動分析 (ABA)	<p>「社会的に重要な行動を有意義なものに改善し、用いる介入法がその行動の改善に寄与することを実証するために、学習論理の原則に基づいた介入法を系統的に適用する一連の行為」。</p> <p>(Baer, Wolf and Risley, 1968; Sulzer-Azaroff & Mayer, 1991)</p> <p>応用行動分析 (ABA)は我々が学習者に対して“行う”ものではなく、世界がどの様に機能しているかということの説明するものである。</p> <p>それは、万物が人に、人が万物に、また、ある人が他者に、そしてある人の行動がその人の他の行動にどの様に影響を与えているかについて探求する科学である。</p>
オートクリティック	<p>スキナー博士による言語オペラントの定義。</p> <p>コミュニケーションに関する状況および話し手の条件に依存する言語行動。例えば、「りんごがすごく欲しい」にある「すごく」は話し手の空腹に関係していて、リンゴそのものには関係していない。文法上の特徴もオートクリティックである。</p>
音声出力機器(SGD)	<p>発語を生み出す機器 (Speech Generating Device) 重度の言語障害を持つ人に対して発語でコミュニケーションできるように録音による音声、または機械音による電子的な拡大代替コミュニケーション機器のこと。</p>

か	
拡大コミュニケーション	発語を補うために使われるあらゆる機器、方法、システムのこと。
ガイドアクセス	ガイド付きアクセスが取り除かれるまで、一つのアプリしか起動できないモードにタブレットデバイスを設定する方法。通常、タブレット上のコミュニケーションアプリをコミュニケーションモードだけにするときに使われる。
課題分析	行動連鎖型レッスンにおけるステップとその順序。
学校での分野	未就学から成人まで、幼稚園から大学までのスキル全てのアカデミックスキルを含めた機能的な分野。
き	
機能的に等価な代替行動(FEAB)	機能的に等価な代替行動 - 減らしたり取り除いたりしたい標的行動と同じ機能を持つ社会的に受け入れられ安全な代替行動のこと。たとえば、課題から逃れるために誰かの頭を叩く代わりに‘休憩’カードを使うなど。
機能的な活動	機能的な活動は人が社会で自立するために必要なスキルを発達すること。
機能的なコミュニケーション	機能的なコミュニケーションは（社会的に定義される）行動を他の人に何らかの行為/行動を起こし、その行動を向けられた人は即座に物的または人的強化を返す。（Bondy & Frost,2020）
機能的コミュニケーショントレーニング (FCT)	問題行動または、状況にそぐわない行動（CIB）の機能を定めた後、特定のコミュニケーションスキルを教えること。これは機能的なコミュニケーションスキルを特定のモダリティを使って指導するのと異なる。
機能的な目標	学校やご家庭そしてコミュニティにて独立性を高めるために必要な適切な資料の反映や年齢に伴う期待に対し機能的な目標は焦点をおきます。
教育へのピラミッドアプローチ® (PAE)	<p>‘機能的ABA’ として知られているものである。行動の科学的な研究に基づいて、効果的な教育環境を作り出すために応用行動分析の成果を広範囲に体系的に取り入れている。機能的な活動と機能的コミュニケーションスキルを強調している。</p> <p>教育へのピラミッドアプローチ® (PAE) についての詳細は： https://pecs-japan.com/教育へのピラミッドアプローチ/ からご覧ください。</p>
強化子	強化子と呼ばれ行動を強める（将来的に行動がより起こりやすくなる）結果事象のこと。たとえば、対象者が絵カードを交換した直後に好みのおもちゃ（強化子）を受け取ったら、コミュニケーションの相手により絵カードを交換するようになる。

強化子アセスメント	一つまたは複数の刺激を提示した際に生起する目標の反応に応じた時に使われる直接的なデータを基にした方法。そして、将来の反応率に対する影響を推定する。
強化スケジュール PAEでは「強化のパターン」と知られている	ある行動に対する報酬の経時的分布。 「ある特定の行動の強化スケジュールは全ての応答「継続的」に対して強化されるまたは、ある応答「変数的」に強化される。Miltenberger (2007, p.86)
強力な強化子	強力な強化子は、様々な場面や状況で行動の多くの側面を広く強めるような結果事象に関連する。それらは、物的、活動、人的、または感覚的なものであったりする。強力な強化子のシステムは、支援者と対象者の間の契約の重要な部分をたどるある種の視覚的方法の使用に関連する。
逆行連鎖	最後のステップを除いて全てのステップまでをガイドし、最後のステップを本人に達成させる（または、自分で達成するように指導する）指導方略。最後のステップが習得されたら、本人に最後から2番目のステップを指導するようにして、全ての行動連鎖を自分で達成できるようになるまで行う。教育へのピラミッドアプローチ第2版の221ページを参照、また、PECSマニュアルの69ページにより詳細な情報が載っている。
く	
け	
言語行動	「...他者を仲介として強化される行動...」(p.2)そして「...聞き手は、話し手の行動を強化するために（言語共同体によって）予め条件付けされている様式で応答するはずである...」これは、コミュニケーションまたは言語と考えられているスキナーの正確な行動分析的定義である。この分析においてバーバルはボカールという意味ではなく、もっと広範囲の用語を指す。
こ	
コア言語	表出コミュニケーションにて最も頻繁に出てくる言葉。言葉のリストは最初に健常児が発する言葉のリストとは違い、孤立的に使われるまたはつなげて使われるその他の言葉。
行動スキルトレーニング	支援者が生徒を教えるために必要な指導法、モデリング、練習そしてフィードバックを利用してまとめたトレーニングパッケージ。練習とフィードバックは習得目標を獲得するまで繰り返される。
行動単位型レッスン	状況により正誤が左右され、短く独立した反復可能な行動を習得するレッスンの事。たとえば、正しい色を選択する；週の曜日を言うなど。
行動連鎖型レッスン	決まった順番で行う一連の流れを教えるレッスン。たとえば、自

	<p>転車に乗る、お茶を入れる、文を構成するなど。</p>
高頻度の強化スケジュール	<p>スキルを習得する早期の時期のレッスン内で支援者が頻繁に強化を提供する。支援者が高頻度から徐々に頻度を減らしていく方法。</p>
固定間隔強化(FI)	<p>決められた時間の後に自発した次の行動を強化される。例えば、FI5分とは、5分の間隔後に起きた次の反応が強化される。</p>
固定比率(FR)	<p>いくつかの正反応を自発した後に強化される</p>
コメント	<p>コメントは、世の中の出来事や物事の一面についてコミュニケーションすることに関連する。相手から返ってくる結果は、通常は賞賛されるとか、単に会話の継続であるなど純粹に対人的なものである。(タクトを参照)</p>
コミュニケーションブック/バインダー	<p>対象者が一日中コミュニケーションを維持し使うための絵カードを整理し収納するためのもの。</p>
コミュニケーション遅延	<p>コミュニケーションスキルは健常児の発達に沿って発達しているが遅れている。</p>
コミュニケーション障害	<p>コミュニケーションスキルが基準の発達順序に沿って発達していない。同じ年齢の生徒と比較すると、いくつかのスキルは早いまたは遅い段階で発しているが、一般的には散乱したパターンでスキルが出てくる。</p>
コミュニケーション上の応答	<p>コミュニケーションをとっている他の人へ応答すること。例えば、「何が欲しい？」に答える。 イントラバーバルも参照。</p>
コミュニケーションドメイン	<p>機能的な分野は発語と聞く事のスキルに関係する。(表出と理解言語スキル)。</p>
コミュニケーション様式	<p>人が使用するコミュニケーションの様式 (例：絵、発語、手話、書字など)。</p>
コミュニケーションの誘惑	<p>コミュニケーションの機会を増やすために環境を設定する方法。コミュニケーションのために「状況を整える」</p>
コミュニケーショントレーニング時間割	<p>PECSのプロトコルのフェイズに関連して9つの重要なコミュニケーションスキルを教えるためのおススメの順序</p>
コミュニケーション試行 vs. コミュニケーション機会	<p>コミュニケーション試行は1つのコミュニケーション交換で成り立つ。例えば：パズルのピースを要求する=1試行、パズルのピースを3回要求=3試行。 アイテムやコミュニケーションパートナー及び、環境の設定や活動の変化は異なった機会となる。例えば、パズルを違う人から要求する場合=違う機会となる。</p>
さ	

し	
支援技術	スキルを改善、増加または維持するために使われる全ての任意の道具（ツール）。
シェイピング	対象者がすでにレパートリーとして持っているスキルから始めて徐々に新しい行為に変えていくために段階的に強化子を使う方法。目標よりも低い基準の行動は強化せず、目標とする行動に近いものを強化することで徐々に目標行動に近づけていく。シェイピングは‘触らないで教える’ように見えるかもしれない。純粋なシェイピングではプロンプトを使わないので、プロンプトを取り除く必要がない。
視覚的強化システム	指導者と対象者の間の重要な部分の契約を表す視覚的に仲介された強化システム。（例：トークンボード、ポイントし捨てう、雇用者契約）。
失行症/発語失行症	音素を意図的に産生することが難しく、筋力低下による構音障害とも異なる。
自然な強化子	ルーチンや活動の完成において通常の一部になっている強化子（たとえば、食事の準備直後にサンドイッチを食べたりミルクシェイクを飲んだりする、セーターや上着を着た直後に外出するなど）。
自立分野	食べる、着替える、衛生などに関連する個人の責任の世話や家庭、学校、地域社会における個人の安全スキル含まれた機能的な分野。
弱化	将来生起する行動が減少、遅延を生み出すためにつながる結果事象。
重要なコミュニケーションスキル	9つのコミュニケーションスキルはモダリティに関係なく表出そして理解スキルにとって最も重要です。これらには要求、休憩を要求する、援助の要求、はい/いいえに応答する、「ダメ」「まって」に応じる、指示に応じる、スケジュールに応じる、そして活動から活動への移行が含まれています。
重要なコミュニケーションスキルチェックリスト™	表出と理解スキルを含んだコミュニケーションスキルを非公式に評価する (https://pecs-japan.com/無料教材/)。
順行連鎖	対象者はまず行動連鎖の1番目のステップを指導し、その後2番目以降の残りのステップは支援者にガイドしてもらうような指導方法のこと。1番目のステップを習得したら、2番目のステップを指導して3番目以降の残りのステップをガイドする。そうやって全ての行動連鎖を自立してできるようにしていく。
述語カード™	コミュニケーションを行う上で動詞などの機能を持った文の最後に来る語句。1つの絵カードで2語以上が使われる。たとえば、「ください」「みえます」「してほしい」「もっています」「です」

条件付弁別	「うたいましょう」「てんきです」「なまえです」など。 2つの特徴的な環境の要件によって最低2つの反応の弁別を表示すること。例：赤いトラック VS 青いトラックそして赤い鉛筆 VS 青い鉛筆。
シンプルな弁別	正誤がどちらか一つ応答できる弁別。例えば PECS でのフェイズ IIIA にて一つは好むアイテム/活動もう一つは好まないまた状況に関係のないものの2枚の絵カードを提示したとき。
人的結果事象	ある行動の後に提供される社会的相互作用/フィードバック（例：賞賛、話をし続ける、注目、ハイタッチ等）。
人的強化	人的結果事象を通して行動を強化するプロセス。
人的強化子	将来的にある行動の増加/加速をもたらす行動の後に追加された人的結果事象。
す	
せ	
正の弱化	行動が起きた後に足される結果事情（頻繁には CIB）が将来起こるその行動が減速/減少する過程。
正の弱化子	行動の後に追加される結果事象により将来その行動が起こる比率が減速/減少する過程。
正の強化	ある行動の後、結果事象にて足されたことが将来にその行動の生起率が上速/増加すること。
正の強化子	ある行動の後に足された結果事象が将来起こるその行動を生起率を上速/増加する。
選好測定	強化子として使える刺激を見つけ出す。対象者が好む刺激を見つけ出すため様々な方法を示す。好みの価値や（最も好んでいるもの VS あまり好んでいないもの）、活動を要求されている時の状況下でそれらの強化子の価値観の変動、欠乏状況の時、または強化スケジュールが変更された時等に対応する。
漸進的時間遅延	合図とプロンプトを両方同時に提示することか始まる方法のひとつ。その後の試行にわたり、合図を提示してからプロンプトを提示するまでの間の遅延を徐々に増やし、対象者がプロンプトを提示される前に合図に応答するようにしていきます。
先生・指導者	他の人を教える人。
指導方法（プロンプト方法とも知られている）	新しいスキルを教えるために追加された「手助け」を含む様々な方法の使用と対象者が合図のミニ応答するようにこの「手助け」を体系的に取り除く事。

全課題連鎖化（指導法）	連鎖型レッスンを指導する際に、全ての順番を毎回行い指導は前回の試行の際にで一人ではできない順番に焦点をあてる。
そ	
た	
対応チェック	条件づき弁別を確認する方法の一つ。2つ以上同じくらい好むアイテムを提示された際、生徒がアイテムを要求したとき、支援者がそのアイテムを生徒に渡すのではなく生徒にアイテムを直接選択してもらおう。例えば：生徒が好きなおもちゃの中からボールを要求し、ボールを取った場合これは要求した物と選択したものが対応しているといえる。
代替コミュニケーション	発語を獲得しなかったり、発語が失われたりした時に、発語でのコミュニケーションの代わりに使われるあらゆる機器、方法、システムのこと。
他者と共同である対象に注意を向ける行動	「話し手」が注意を向ける行動を「聞き手」に向けた際、同時に環境にあるものに対して反応すること。この反応は通常何かを得る(要求のため)または人的反応（コメントの為）の結果である。
タクト	コンタクトを語源とし、環境の側面を先行条件とし、結果事象が人的であったり教育的であったりするもの。コメント、命名、記述など。例えば：「あの日の出はきれいだ！」といった後そのコメントを聞いた相手が「本当だね！」という。
ち	
地域社会 の分野	幅広い地域社会の設定の中で(例：買い物、お金を使うこと、安全性、位置、交通、道路を渡る、医療関係の場、余暇など)自立でき、重要なスキル機能的な分野。
遅延プロンプト	合図（学習者がそのうち反応するようになる物事）を出してからプロンプト（確実に行動が起こるように行う手助け）し始めるまでの時間を遅らせること。遅延時間は、一定(たとえば、遅延時間は常に5秒など)または漸進的(たとえば、試行が進むにつれて遅延時間を1秒から5秒に伸ばす)であったりする。
直接的結果事象	賞賛や追加的な褒美、例えばお金やトークンとは対照的に、通常、物やアイテムまたは活動等の強化子が得られること。
直接的/物的強化	具体的結果事象（たとえば、ボールを受け取る、トランポリンを跳ぶ、要求した情報を受ける、罰を避けるなど）のように、行動によって特定される結果事象を通じて行動が強められること。
て	
定位反応	次の行動へ移る前にあるものに目を向けて刺激に変化があった際の行動反応。フェイズ PECS にあるフェイズ IIIA に手このスキル

	を指導する必要がある生徒もいる。もし、生徒が絵の選択をする前に絵の方向を見ない場合は、正確な絵の弁別スキルが発達しないかもしれない。
と	
動機づけ操作	行動が起こる前の一定の刺激、事物、事象の状況のこと。
な	
に	
日常生活の分野	全ての年齢層にわたる自立生活スキルを含む機能的な分野。機能的な分野。この分野は生活の中の活動によって選び分けることができる。例えば（家事、食事の用意、トイレ、清潔保持するための器具、洋服、眼鏡等）家庭内の場で(寝室、台所、食卓等)、または一日の時間帯にて（朝のルーチン、寝る時のルーチン等）。
ぬ	
ね	
の	
は	
バックステップエラー修正	間違えたステップの1つ前に戻ってやり直すという行動連鎖型レッスンで起こった間違いを正すためのエラー修正法。教育へのピラミッドアプローチ第2版の220-221ページを参照。PECSマニュアルの76ページに例が載っている。
般化	様々な刺激に対して起こる行動のひろがりと同じ刺激に対する行動の形態の変化のこと。これらの変化にはパフォーマンス自体の動作、または側面に関連する条件が含まれる場合があります。一つの教育の目標はスキルを般化すること。例えば、本を読むスキルをクラスで教えられた際、その行動は他の場所でも発生します。これは刺激般化に対応し、読書率を上げると反応般化が反映されます。
反応	予測していたよりも広く広まったある状況下の行動。例：4つの足を持つ毛のある動物全てを「犬」と呼ぶ、またはPECSユーザーが文カードを使ってコメントをしている時に「ください」を追加してしまう。
反応般化	頻度、精度、持続時間、強度のような行動の側面を変える。これらの変化は、同じ環境での変化の自立になる。たとえば、1つの玩具を片づけることを習得した後に、支援者からの手助けなしに5分以内に30個の玩具を片づけて適切に仕分けことを学ぶ、あるいは「こんにちは」や「ダメ」を5つの違う言い方で言う場合である。

ひ	
表出言語	どんなモダリティを使用して他の人とコミュニケーションをすること
ピボタルレスポンストレーニング (Pivotal Response Training®)	ピボタルレスポンストレーニング (Pivotal Response Training) は、自発的コミュニケーションやその他の重要なスキルを促進するために開発された行動論に基づいた指導法である。子どもの現在の関心事に応答しながら、徐々に関心を広げていくように取り組んでいく。PRT で使われる方法論は、PECS で使われるものに類似している。
ピボタルスキル	他のスキルのグループやセットによって影響されるスキル。例えば模倣は多くの他のスキルにつながる、本読みは他の新しい情報を習得するのにつながり、他者と共同である対象に注意を向ける行動は環境にあるカギとなる変化を観察できるようになる等（これらの他のスキルは最初のスキルの中心にある）。
ピラミッド認定教室™	ピラミッド認定教室はわかり良いトレーニングとコンサルテーションを組み合わせる教育へのピラミッドアプローチ®を使用し、効果的な学習環境を構成する支援・教育チームをサポートします。
ふ	
フェイディング	プロンプトによって提供された援助の濃度を徐々に減少していくこと。
負の弱化子	ある行動の後に除去された結果事象により将来その行動が生起頻度が遅れるまたは減る。
負の弱化	ある刺激や結果事象（一般的に欲しくない、または嫌悪性刺激/状況）を除去されるとその行動が将来生起頻度が減る、弱くなる、遅れるという方法である。
部分課題（指導）	連鎖系レッスンを教えている時、全ての順番にあるステップを教えるのではなく、ある部分の順番を教えること。ある部分のスキルだけを教えるために使うとき、また他の順番が後程/現在焦点のある部分の習得後、もし機能的に教えられるとき。
プロンプト	新しいスキルを教えるために行われるあらゆるタイプの手助けや教材の修正のこと。スキルが自立して生じるために、プロンプトは取り除かなければならない。プロンプトには、身体プロンプト、言語プロンプト、身振りプロンプト、その他がある。
プロンプトの方法（指導方法とも知られている）	新しいスキルを教えるために追加された「手助け」を含む様々な方法の使用と対象者が合図の応答するようにこの「手助け」を体系的に取り除く事。
文カード™	コミュニケーションブックの部品の1つで、交換できるように語句や文を決まった順番で構成して絵カードを置く長方形の一片。

分化強化	2つの別々の行動の間で、一方の行動の生起率や強度に関して特定の変化を生み出すために強化のレベルをそれぞれで変える対応のこと。たとえば、プロンプトした反応は、自立した反応よりも少ない強化子を得るなど。2つの異なる行動に対して、異なる別々のレベル、程度、量の強化を使うこと。たとえば、合図に自立して反応する場合は多くの報酬を得られるが、プロンプトに反応した場合は小さな報酬を得る場合など。
物的強化子	将来的にのある行動が増加/加速される結果を導く行動の後に追加される確実な結果事象（例：シール、玩具、食べ物）。
へ	
PECS でなければただの絵カード	PECSは機能的なコミュニケーションスキルを教える手順であること、そして絵は様式（モダリティ）として使用されている事を思い出してもらうため。絵カードや画像は様々な方法で理解と表出コミュニケーションとして使用できる。
弁別	様々な状況に明確に対応する。例えば、猫 VS 犬 の命名を言うことや ダルメシアン VS コーギ の命名を言うこと。
弁別刺激 (S ^D)	ある刺激が特定の行動が強化につながるという暗示。SDはある動作が起こるように身体的に無理やりまたは保証しないが、基本的に過去の経験の結果から発達する。例えば止まれの標識または信号が赤になることは止まれの刺激になる。
平均発話長	平均発話長 (Mean Length of Utterance) - コミュニケーションの長さの平均は、発話中の形態素の数によって決定される。
平均文章長	交換された文カード上にある絵カードの数割る交換数は平均/交換される毎回のコミュニケーションの平均文章長さ。
変数間隔 (VI)	強化子が与えられる前に経過する必要がある時間間隔は変化しますが平均した時に決められた特定の時間になる。
変数比率 (VR)	強化スケジュールは異なるが、強化子は様々な数の応答の後に与えられ、特定の決められた数に平均します。
ほ	
ま	
マンド	スキナー博士によって定義された言語オペラントのひとつ。先行条件が欠乏状態（たとえば、空腹）または嫌悪条件（たとえば、降雨）で結果事象が直接関連したもの（食べ物や傘）である言語オペラントで、語源は"command"または"demand"。マンドは、何かを得る（たとえば「トラックください」）とか何かを除く（独りにしてください!）のような特別な報酬のための要求に近い。
み	

む	
め	
も	
もしガラガラ変わるようであればその時点でやめる	フェイズ IIIB の対応チェックにて、もし PECS ユーザーが 4 ステップエラー修正のステップ 4 にて一致しない方のアイテムへ 2-3 回続けて手を伸ばしてくる場合は試行をやめて焦点を他にあてたほうがよい。
模倣	他の人が今行ったことをする。例えば、一人がタンバリンをたたいたらすぐに同じようにタンバリンをたたいたり、誰かが何かを言ったら同じことを言ったりする。
や	
ゆ	
誘発された行動	<p>行動の前のきっかけとなる出来事（先行条件）が行動を引き起こす主要因になっているような行動。たとえば、飼い犬が幼子のお菓子を取り上げてしまった場合の子どもの泣きや反動は、お菓子を失うことによって‘誘発’されたものである。</p> <p>先行する刺激に強く影響され、続いて大きな反動が生じるような行動。たとえば、ピンを踏んで跳びあがって叫ぶとか、大好きな玩具が取り上げられて泣くなどは、‘感情的な’反動である。</p>
よ	
容器レッスン	様々な箱、袋、寝袋などを使って数多くの強化子を見えない(または、触られない)様にその容器に隠す。この場合、正しい応答は正しい容器、中に入っているアイテムではない。
要求	具体的、または直接的な結果事象をもたらすコミュニケーション行動。
余暇スキル/余暇分野	社会性に適した仕事に関係していない、学校に関係していないスキルの時間。例：読書、遊び、音楽を聴く、携帯電話やタブレットを使うなど、個人またはグループ志向にすることができる。
予測プロンプト	バックステップエラー修正が不可能であるまたは実用的でない場合、支援者は次回の指導機会に前回と同じエラーが発生しない様に変化を与える。
ら	
り	
理解コミュニケーション	聞く/指示に応じるスキル。

流暢さ	流暢さとは設定された時間帯の中で行われる行動の反応率を上昇すること、基本的に正確さと速度を組み合わせたもの。流暢さのレッスンでは、ペースを設定する指導者ではなく対象者が速度を設定する。
る	
れ	
レッスン形式/レッスンタイプ	ピラミッドアプローチの中では、単位系と連鎖系の2つの特殊な形式を示します。両方のレッスン形式は全ての学習者にとって最も必要です。エラー修正とデータ収集を含めた指導法によってレッスン形式が成りたっています。
レッスン計画/指導計画	特定なスキルを効果的に教えるために必要な主要な要素を説明する特定な計画。教育へのピラミッドアプローチ®では、ピラミッドにある全ての要素をカバーし、データ収集と全ての要素をカバーして計画を立てていきます。
ろ	
わ	
を	
ん	

参考書

Behaviour Analysis for Lasting Change. Sulzer-Azaroff & Mayer, 1991

Baer, Wolf and Risley. Some current dimensions of applied behaviour analysis. Journal of Applied Behaviour Analysis. 1968 Spring; 1(1): 91-97

Behaviour Modification: Principles and Procedures. Miltenberger, 2007

PECS Training Manual, Second Edition Bondy and Frost, 2002

The Pyramid Approach to Education: A Guide to Functional ABA, 2011

Verbal Behaviour. B.F. Skinner, 1957